

第44期(平成30年4月期) 決算補足説明資料

ヤーマン株式会社

業績ハイライト	1
セグメント別売上	2
財務ハイライト	3
来期以降の取り組み	4
（スローガン）	5
（ミッション）	6
（クレド）	7
経営ビジョン～私たちが目指すヤーマン	8
目標とする経営指標	10
来期のトピックス	11
配当について	14

業績ハイライト

店販部門・海外部門の売上が好調で、売上・利益ともに過去最高となりました。一方で、人材確保やブランディングなど今後の拡充が必要な面も多く、次期以降の重要な課題の一つであると考えております。

回次	第40期 平成25年5月1日 ～ 平成26年4月30日	第41期 平成26年5月1日 ～ 平成27年4月30日	第42期 平成27年5月1日 ～ 平成28年4月30日	第43期 平成28年5月1日 ～ 平成29年4月30日	第44期 平成29年5月1日 ～ 平成30年4月30日
売上高（千円）	14,368,659	13,363,663	16,310,824	19,969,588	23,030,230
営業利益（千円）	373,108	647,821	1,028,422	3,503,274	5,385,662
営業利益率（%）	2.6	4.8	6.3	17.5	23.4
経常利益（千円）	374,141	514,718	1,002,211	3,533,869	5,345,643
親会社株主に帰属する 当期純利益（千円）	219,792	311,835	591,524	2,269,042	3,399,819
1株当たり当期純利益 （円）	3.77	5.34	10.16	39.79	59.62

（注）当社は、平成29年11月1日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っており、第40期の期首に当該分割が行われたものと仮定して、1株当たりの数値を算定しております。

セグメント別売上

店販部門が大きく売上を伸ばし、海外部門も好調を維持しました。
海外部門では、中国向けのほか、韓国向けの販売も拡大。シンガポールでの販売も始まっており
ます。

回次	第40期 平成25年5月1日 ～ 平成26年4月30日	第41期 平成26年5月1日 ～ 平成27年4月30日	第42期 平成27年5月1日 ～ 平成28年4月30日	第43期 平成28年5月1日 ～ 平成29年4月30日	第44期 平成29年5月1日 ～ 平成30年4月30日
通販部門（千円）	5,899,968	5,338,088	4,770,882	4,662,885	3,816,292
店販部門（千円）	2,707,333	3,496,485	4,364,668	6,909,317	10,058,901
直販部門（千円）	5,285,325	4,027,476	6,406,546	5,759,948	5,572,722
海外部門（千円）	342,645	376,004	749,358	2,511,577	3,510,910
その他（千円）	133,385	125,608	19,368	125,859	71,405
合計（千円）	14,368,659	13,363,663	16,310,824	19,969,588	23,030,230

財務ハイライト

たな卸資産の圧縮や発注コントロールなどの施策が奏功したほか、有利子負債の返済も進みました。現預金については、ショップインショップや直営店の出店の加速、優秀な人材の確保、ブランディング強化のための広告宣伝活動などに投資する予定です。

回次	第40期 平成26年4月30日	第41期 平成27年4月30日	第42期 平成28年4月30日	第43期 平成29年4月30日	第44期 平成30年4月30日
総資産（千円）	10,321,222	10,295,777	11,373,593	13,947,032	16,524,115
純資産（千円）	6,631,250	6,738,023	6,817,278	8,884,938	11,877,492
自己資本比率（%）	64.2	65.4	59.9	63.7	71.9
現預金（千円）	3,454,078	3,740,339	5,813,824	8,460,290	10,168,850
売上債権（千円）	1,792,590	2,139,938	1,898,257	2,347,827	2,580,729
棚卸資産（千円）	3,497,262	2,771,445	1,793,573	1,285,957	1,408,659
仕入債務（千円）	1,170,524	1,185,712	1,194,229	1,241,352	1,124,343
有利子負債（千円）	1,490,580	1,058,715	1,593,538	1,096,318	632,365

来期以降の取り組み

当社が平成21年12月にジャスダック市場に上場してから、来年・平成31年で10年となります。

また、今年・平成30年は、設立40周年という節目の年でもあります。

この記念すべき年にあたって、会社のロゴを一新し、新たなスローガン、ミッション、クレドを定めるとともに、会社のビジョンを表明することで、私たちが目指すヤーマンの姿を共有し、その実現のために邁進してまいりたいと考えております。

(スローガン)

美しくを、変えていく。

(ミッション)

美しさを実現するものづくり。

それを生むのは、尽きることのないアイデアと卓越した開発力です。

理想の美しさをかなえ、世界中に夢や驚きを届けるために、

私たちは新しい「美のカタチ」を追求し続けます。

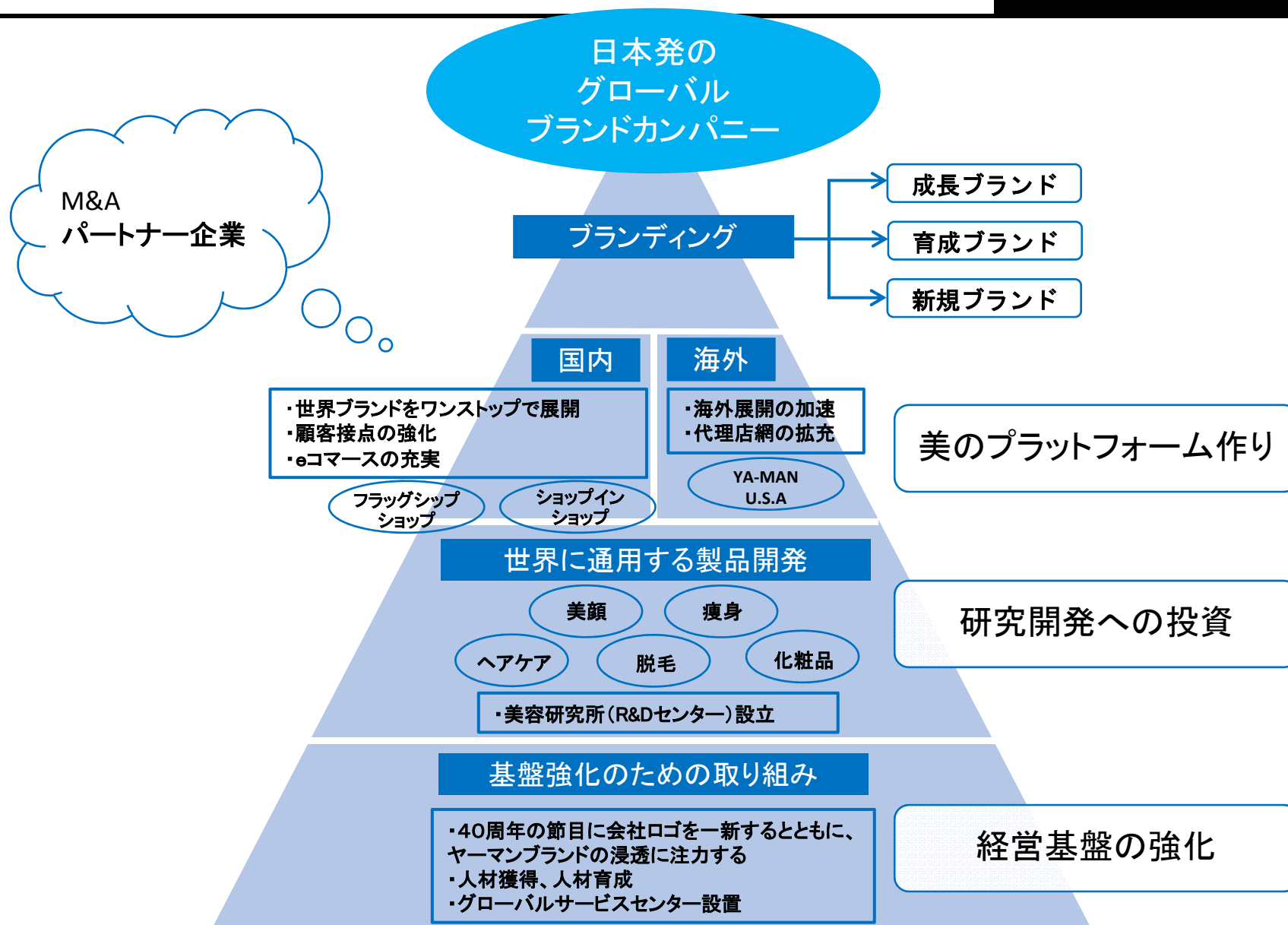
(クレド)

私たちの行動指針

- 志をカタチに
- オリジナリティの追及
 - チャンスは自ら
- お客様ファースト
 - 共に創る

経営ビジョン～私たちが目指すヤーマン

- 「日本発のグローバルブランドカンパニー」として、他者が真似できない製品を作り続けます。
- 新しい発想で新たな市場を創造します。
- 当社の製品を購入してくださるお客様、株主の皆様、お取引先の皆様、会社に属する役員・社員など、ステークホルダー全員が満足できる経営を目指します。



目標とする経営指標

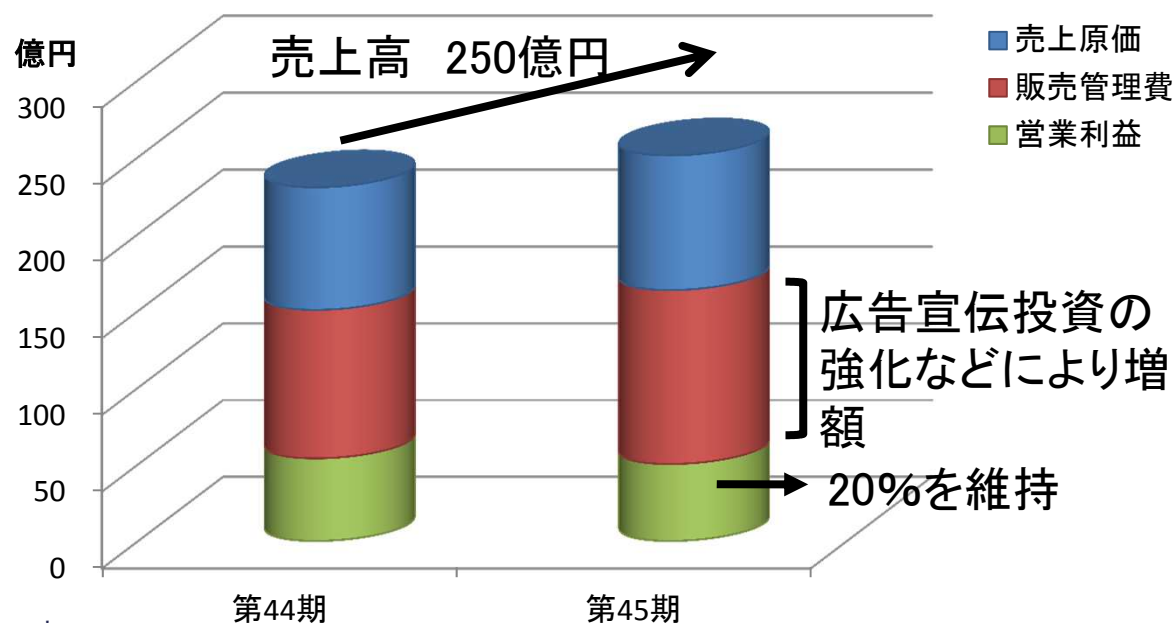
当社グループが属する美容健康業界は、今後も成長が期待できる分野であることから活況を呈しており、この先も競争が激化していくことが予想されます。

このような状況の中、当社グループでは、売上高の伸長による業績拡大を最大の経営課題とするとともに、利益水準の維持についても注力してまいりたいと考えております。

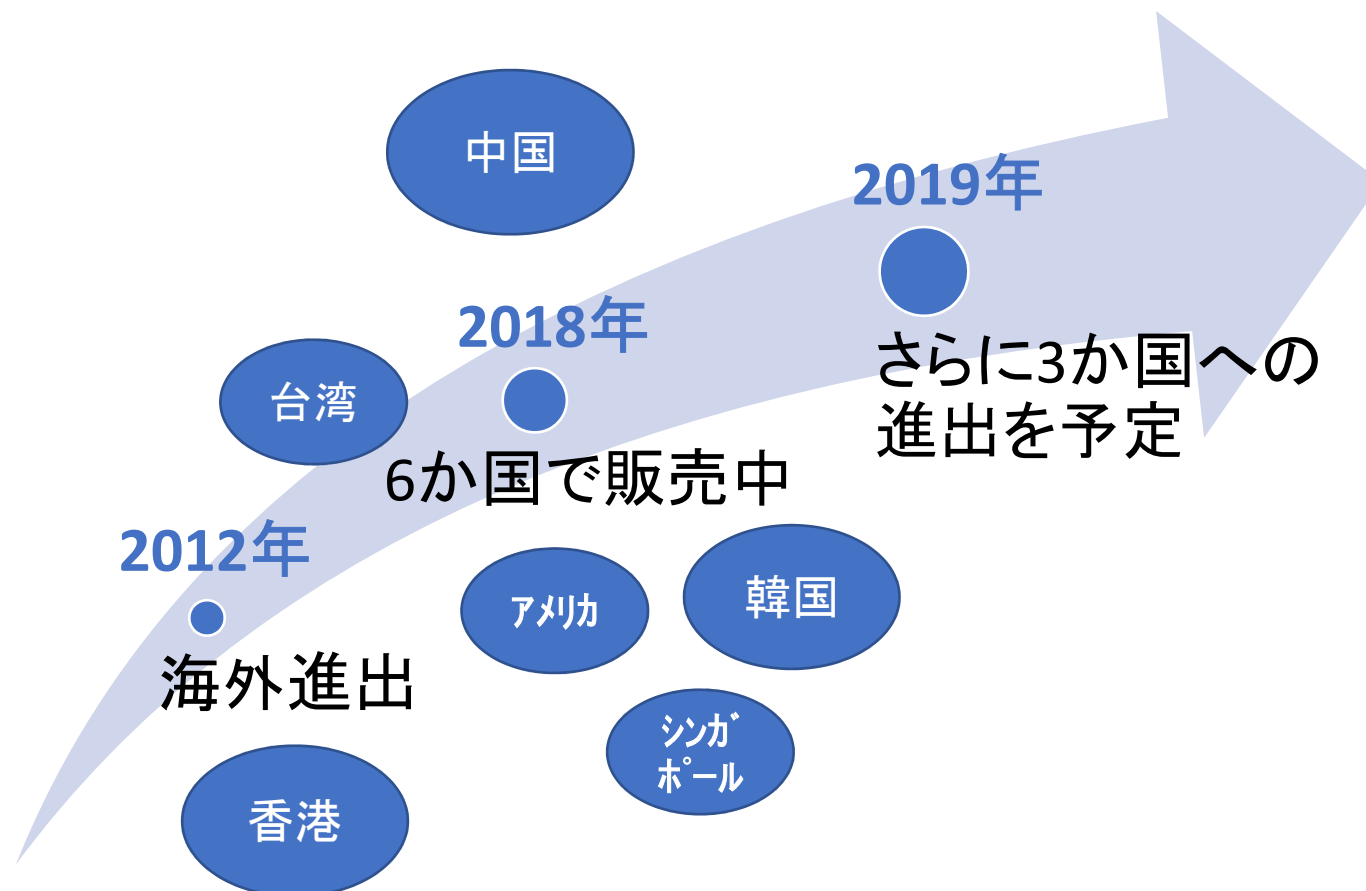
売上高においては早期に300億円を達成することを、利益水準においては営業利益率20%の維持を当面の目標とし、更なる業績拡大に向けての先行投資に積極的に支出し、ビジョンの実現に取り組んでまいります。

来期のトピックス

来期におきましては、ショップインショップや直営店の出店を加速させるほか、優秀な人材の確保やブランディング強化のための広告宣伝活動などに対する支出を増額し、売上高300億円を達成できるような土台作りを務めてまいります。



海外部門におきましては、既存の取引先の売上拡大はもちろん、新たな国への進出を積極的に進める計画です。



店販部門におきましては、家電量販店でのショッピングインショップの展開を進めるほか、銀座、日比谷に続く直営店の出店、百貨店などへの出店も加速する計画です。

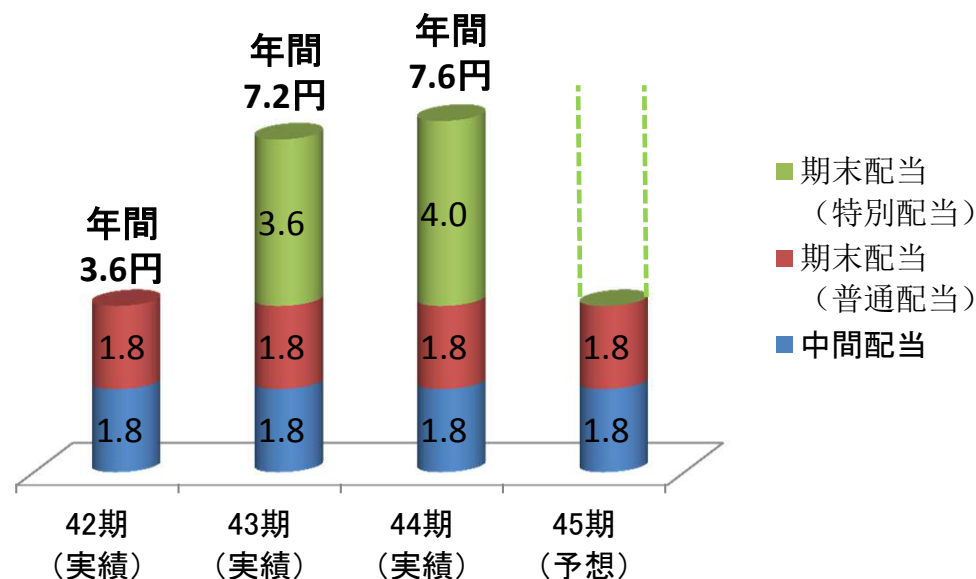


配当について

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つと位置付けております。

配当金につきましては、毎期安定的、継続的な実施を原則とし、期中の業績等を総合的に勘案して決定することとしております。

(注)当社は、平成29年11月1日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っており、右記の1株当たり配当額は、当該分割の影響を加味したものです。



- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等については、様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料は皆様への情報提供を目的としており、投資を勧誘するものではありません。
- 本資料のご利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料のご利用の結果生じたいかなる損害についても、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。